

平成29年度 第3四半期（10月～12月）

# 景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 中小企業相談所

## 調査概要

- 調査対象  
 (1)対象地区：豊橋市内  
 (2)対象企業数：353社  
 (3)回答企業数：183社（回答率51.84%）
- 調査期間  
 平成29年10～12月
- 調査方法  
 往復ハガキによるアンケート調査
- 回答企業の内訳  
 製造業91・建設業27・卸売業18  
 小売業19・運輸業15・サービス業13

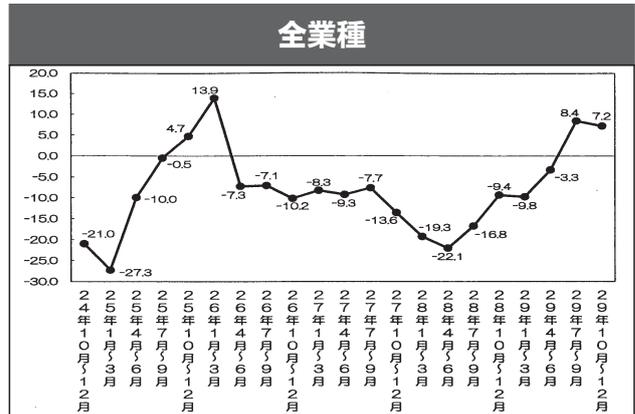
## 全産業業況DI値は前回調査から1.2ポイント悪化、平成28年度第3四半期からは16.6ポイント改善

### ■全業種概要

全産業の総合判断DI値は7.2となり、前回調査（8.4）から1.2ポイント悪化したものの、2期連続でプラス値を示した。平成28年度第3四半期（▲9.4）からは16.6ポイント改善した。

来期見通し（1月～3月）については、業況DI値は0.6となり、前回調査（0.6）に並んだ。平成28年度第3四半期（▲8.3）からは8.9ポイント改善が予測されている。

総合的なDI値は、堅調な製造業と建設業が押し上げ、プラス値を維持したものの、依然として全ての業種において経営上の問題点に人材不足が上位に挙がっており、需要増加に対応できず機械損失が発生しているほか、人件費の増加による収益圧迫など、停滞の要因となっている。



《A》 前年同期（平成28年10月～12月）と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	↑
24.3%	58.6%	17.1%	7.2	↑

《B》 来期（平成30年1月～3月）の景況見通し

良い	同様	悪い	DI値	↑
16.9%	66.7%	16.4%	0.6	↑

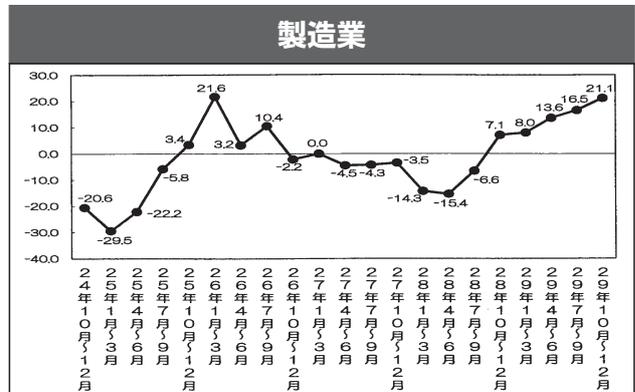
### ■製造業

業況DI値は21.1となり、前回調査（16.5）から4.6ポイント改善、平成28年度第3四半期（7.1）から14.0ポイント改善した。

好調を維持している電子工業や鉄工業を中心に改善が牽引されており、6期連続で業況は上向き傾向。需要は底堅く維持している一方で、人件費や原材料価格・運送費の高騰により、販売価格への転嫁が追い付かず、収益を圧迫しているとの声が聞かれた。

来期見通しについて、食品製造業では、天候不順による国内産農産物の不足が3月頃まで続く見込みであり、早期の解消が望まれるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「原材料価格の上昇」、「生産設備の不足・老朽化」が主に挙げられる。



【今期の景況】 平成29年10～12月

業況	21.1	↑
----	------	---

【来期見通し】 平成30年1～3月

業況	12.4	↑
----	------	---

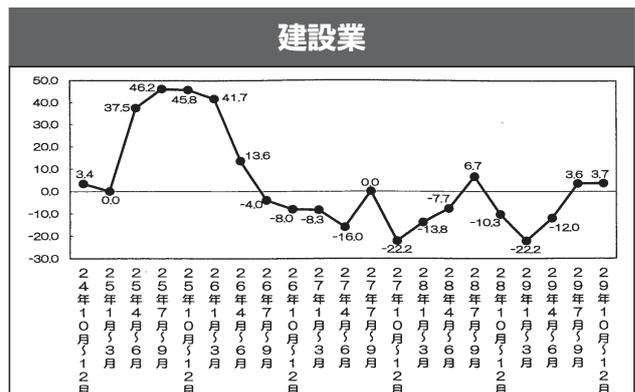
### ■建設業

業況DI値は3.7となり、前回調査（3.6）から0.1ポイント改善、平成28年度第3四半期（▲10.3）から14.0ポイント改善した。

民間設備需要は堅調に推移し、DI値は横ばいながらも2期連続でプラス値を示した。一方で、官公需要は減少傾向にあり、受注は停滞したとの声が聞かれた。また、一般土木建築工事業では、案件があっても職人が不足しているため断らざるを得ないとの声が聞かれた。

来期見通しについては、年度末の官公需要の伸びに期待したいとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「官公庁需要の停滞」、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」が主に挙げられる。



【今期の景況】 平成29年10～12月

業況	3.7	↑
----	-----	---

【来期見通し】 平成30年1～3月

業況	▲3.8	↑
----	------	---

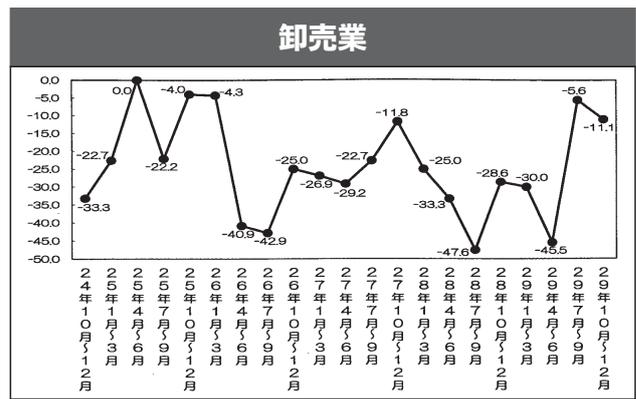
## ■卸売業

業況DI値は▲11.1となり、前回調査（▲5.6）から5.5ポイント悪化、平成28年度第3四半期（▲28.6）から17.5ポイント改善した。

鋼材や民間向けの建材卸売業では改善の声が聞かれたものの、全体では業況悪化の声が多く聞かれ、DI値は依然としてマイナス圏を推移している。

来期見通しについて、包装資材加工業では、原油価格の値上がりで仕入単価が上昇する見込みとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「需要の停滞」、「販売価格の低下・上昇難」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成29年10～12月

業況 ▲11.1 ↑

【来期見通し】平成30年1～3月

業況 ▲17.6 ↑

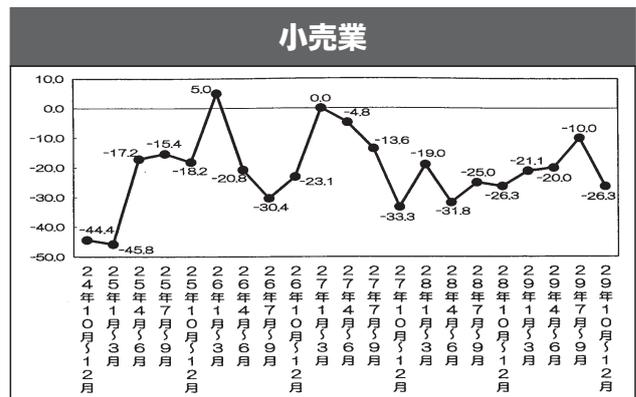
## ■小売業

業況DI値は▲26.3となり、前回調査（▲10.0）から16.3ポイント悪化、平成28年度第3四半期（▲26.3）と同ポイントを示した。

天候不順がDI値に大きく影響した。スーパーマーケット業では、青果物の高騰で採算が取れないとの声が聞かれた。また、衣料品小売業では、気温の低下による冬物の伸びは一時的で、消費者の意節約志向が顕著との声が聞かれた。

来期見通しについて、靴小売業では、今冬は目立ったヒット商品が見当たらないため、春物に期待したいとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「需要の停滞」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成29年10～12月

業況 ▲26.3 →

【来期見通し】平成30年1～3月

業況 ▲15.8 ↑

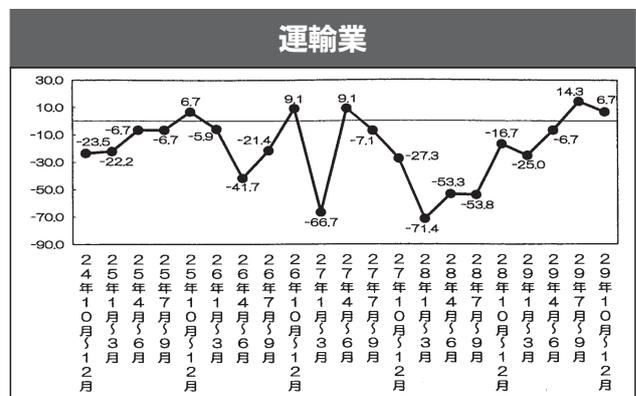
## ■運輸業

業況DI値は6.7となり、前回調査（14.3）から7.6ポイント悪化、平成28年度第3四半期（▲16.7）から23.4ポイント改善した。

製造や建設など他業種に牽引され、DI値は2期連続でプラス値を示した。一方で、慢性的な人材不足による人件費の増加に加え、原油高基調に伴い燃料費は増加しており、収益を圧迫しているとの声が聞かれた。

来期見通しについては、上昇傾向にある原油価格への対応が急がれるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「人件費の増加」、「運送単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成29年10～12月

業況 6.7 ↑

【来期見通し】平成30年1～3月

業況 6.7 ↑

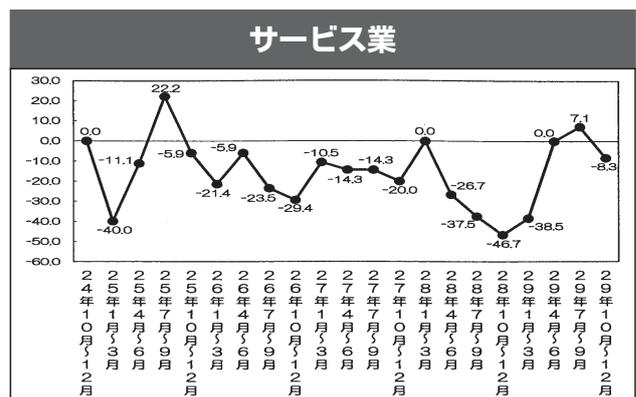
## ■サービス業

業況DI値は▲8.3となり、前回調査（7.1）から15.4ポイント悪化、平成28年度第3四半期（▲46.7）から38.4ポイント改善した。

DI値は前年同期比から大きく改善しているものの、顕著な人材不足が業況の持ち直しを遠ざけている。清掃業では、顧客ニーズの変化が激しく、収益性の低い部門の客数が増加したため、採算が取れないとの声が聞かれた。

来期見通しについて、飲食業では、不採算店舗の退店により収益改善を予想しているとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「従業員の確保難」、「消費者ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成29年10～12月

業況 ▲8.3 ↑

【来期見通し】平成30年1～3月

業況 ▲18.2 ↓